

# teniteoクリニック

子どもの症状別に、気をつけたいポイントやお家で出来る正しい対処法を先生に教えて頂きます。

今月の  
テーマ

## 熱性けいれん

<対象年齢 / 0 ~ 6歳>

子どもによく起こる熱性けいれん  
落ち着いて対処するために

**小**

児期は一生のうちで一番けいれんしやすい時期と言われ、脳や神経が未熟なことが関係しているとも言われます。子どものけいれんで一番多いのが「熱性けいれん」で、日本人の10〜15人に1人は経験するという比較的良好に見られるものです。ほとんどが6ヶ月〜5歳の子どもの間に発生し、特に1歳頃に多く見られます。発熱初期の急な体温の上昇の時に起こりやすいのが特徴で、突発性発疹やインフルエンザといった高熱の病気が発端となり起こることが多いようです。熱性けいれんはいわゆる「良性」の疾患で、後遺症を残すことなく自然消失するもので、多

くの発作は数分以内に治まり、その後は意識が朦朧としながら眠っていくことが多いです。けいれんの持続時間が30分未満であれば、まず問題はないでしょう。もし、子どもにけいれんが見られた場合は、数分で自然に止まるということを思い出し、落ち着くことが大切です。けいれんが数分たっても続く場合、救急車を呼ぶことを考えると良いでしょう。また子どものけいれんの多くは熱性けいれんですが、稀に髄膜炎・脳炎・脳症などの病気が隠れていることもあるので、数分でけいれんが治まったとしても、必ず病院を受診するようにして下さい。

## 熱性けいれんの応急処置

突然のけいれんを、完全に落ち着いて対処するのは難しいかもしれませんが。事前に熱性けいれんについて知っておくことで、少しでも落ち着いて行動できるかもしれません。

### 熱性けいれんとは？

発熱を伴って起こるけいれんで数分程度で治ります。けいれんと発熱が同時で、けいれん後に発熱に気付くこともあります。



### けいれんが起きたら？

#### 1 落ち着いて行動する

多くのけいれんは数分間で落ち着きます。まずは慌てず子どもの様子を見るようにしましょう。



#### 2 5分間子どもの様子を見る

30分未満であれば、子どもへの影響は大きくありません。まず衣服を緩めて、横にしてあげて下さい。嘔吐しそうなことがあるので、その時は横向きにして下さい。

#### 3 病院に行く

けいれん自体よりも、けいれんの原因として隠れている髄膜炎・脳症などの怖い病気を見逃さないことが、後遺症を残さない上でも大切です。けいれんが治ったら、病院に行くようにしましょう。



●監修  
西門優一先生

平成26年度より小児センター勤務。専門は小児内分泌ですが、小児一般診療も行っています。病気を治療するだけでなく、子どもたちの成長や発達を見守ることを大切に診療しています。



あいち小児保健医療総合センター

愛知県大府市森岡町7-426

☎0562-43-0500 ⑧日・月

<診察時間> 9:00~12:00, 13:00~16:00 (紹介予約制)

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/>